



奉祝 天皇陛下の御即位を謹んで御祝い申し上げます

天台宗 総本山比叡山延暦寺



根本中堂御宝前に掲げられる「傳教」の勅額

「伝教」という勅額は、所謂、伝教大師の大師号の勅額ではない。大師号の謚号であれば伝教大師の四字が書かれるはずで、この度の伝教は「教を伝えよ」と訓じて「でんきょう」と濁らずに読み、天台の教えを益々広く伝え弘めようという思し召しを蒙ったのだと拝察する、と仰つたという。「伝教」は日本で最初の大師号として「慈覚大師」と共に清和天皇より賜つたもので、宗祖の業績、天台の教えを日本に伝えたことを称えての「伝教大師」であろうと思われます。しかしその大師号の伝教二字を根本中堂の正面に掲げると、確かに謚ではなく比叡山に与えられた使命と感じられます。

大師が伝えた仏法の伝持、国の宝たる人材の養成、社会と人々の平安のための祈り、これらが変わらぬ比叡山の使命であると示して勅額は総本堂の正面で鎮まっています。

令和の御代を迎えるに当たり根本中堂では、4月28日から5月1日の4日間に亘って臨時の御修法を勤めて、御即位の奉祝と天下泰平の祈りを捧げました。



発行所
比叡山時報社
□jihoh@deluxe.ocn.ne.jp
〒520-0116
電話 077-578-0001
振替 00970-2-9732
宗教法人延暦寺事務所
定価 1部110円 年1200円

延暦寺広報

比叡山講福聚教会
会報

年度会費(3000円)中に会報(比叡山時報)購読料を含む。

永劫に照らし続ける
永照統
令和元年比叡山から
発信する言葉



ご購読は
こちらから

延暦寺の総本堂根本中堂の堂内の中面には、「傳教」(伝教)の勅額が掲げられています。ちょうどその勅額の下に玉座を示す壇が置かれ、中央の場所は結界で区切られています。この勅額について紹介しましょう。

昭和12年7月3日にこの勅額は比叡山延暦寺に下賜されました。天台宗はこの年の春、開創一千百五十年記念法会を執行し、比叡山阿弥陀堂が新築された年でもありました。天台座主猊下にお伴した延暦寺の檀信徒総代の三名の名で、全国の檀信徒に向けて発行された冊子が残されています。「勅額拝戴に際し全国天台宗檀信徒諸賢に告ぐ」と題されたものです。

冊子の前半には、東叡山寛永寺から宮中への参内の様子、宮内大臣から梅谷孝永天台座主が勅額を拝受され、その後上野公園を多くのお迎えの人々の中を行列して寛永寺に戻られる様子など詳しく報告されています。寛永寺では勅額拝戴の式典を行い、翌4日午前7時54分大津駅着。江若鉄道叡山駅からケーブル坂本駅まで地元の人びと、比叡山専修院、中学小学生等が行列してお迎えしケーブルで山上へ、山上でも叡山学寮の生徒ら全山に雲集の奉迎者の間を根本中堂へ到着されたとあります。そして冊子の後半には、梅谷座主猊下から三人の総代が親しく賜つたお言葉を伝えています。

「伝教」という勅額は、所謂、伝教大師の大師号の勅額ではない。大師号の謚号であれば伝教大師の四字が書かれるはずで、この度の伝教は「教を伝えよ」と訓じて「でんきょう」と濁らずに読み、天台の教えを益々広く伝え弘めようという思し召しを蒙ったのだと拝察する、と仰つたという。

「伝教」は日本で最初の大師号として「慈覚大師」と共に清和天皇より賜つたもので、宗祖の業績、天台の教えを日本に伝えたことを称えての「伝教大師」であろうと思われます。しかしその大師号の伝教二字を根本中堂の正面に掲げると、確かに謚ではなく比叡山に与えられた使命と感じられます。

「伝教」比叡山に与えられた使命

